

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/07/01

RBNZは4回連続利上げなるか？

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	豪CPIに注目 予想レンジ: 92.700 ~ 98.200 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZの金融政策に注目 予想レンジ: 85.600 ~ 92.200 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	高インフレと低成長が同居 予想レンジ: 9.000 ~ 9.900 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

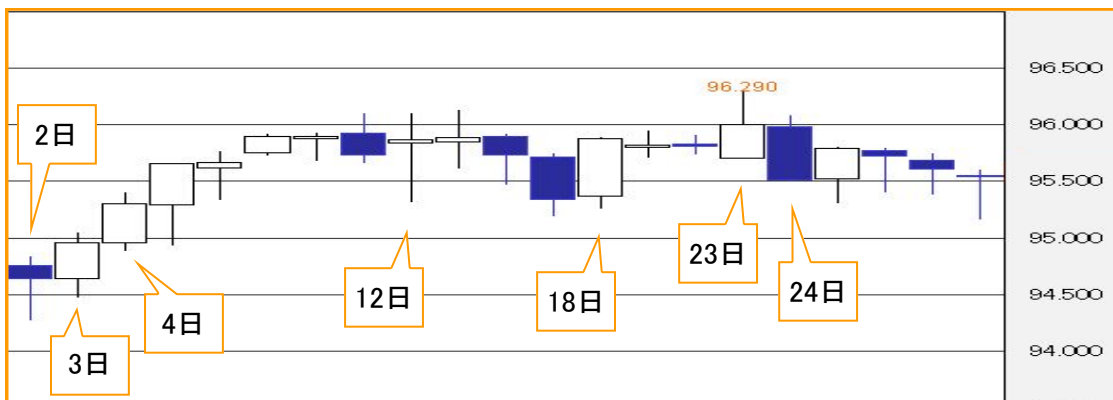
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 6月の推移

AUD/JPY

6月の豪ドル/円相場は94.287~96.290円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

この月に豪州で発表された国内総生産(GDP)や雇用統計はいずれも豪州の金利見通しを左右するほどの結果ではなかった上、米ドルを積極的に動かす手掛かり材料を欠いた事から、豪ドル/米ドル相場が0.92ドル前後~0.94ドル半ばのレンジ内で推移。さらに、円相場が手掛かり材料難であった事も重なり、動き出しのきっかけが掴めない中で豪ドル/円は95円台を中心とする小動きとなった。



四本値

OPEN	94.767
HIGH	96.290
LOW	94.287
CLOSE	95.551

2日	前週末に「第一生命が5000億円で米中堅生保プロテクティブ買収で最終交渉」と報じられた事を受けて全般的に円売りが優勢となり、豪ドル/円は日経平均の寄付直後に94.843円まで上昇。しかし、豪4月住宅建設許可件数が前月比-5.6%と予想(+2.0%)外の低下となった事を受けて失速した。
3日	豪準備銀行(RBA)は声明文で「住宅価格の上昇は小幅鈍化した」「公的支出は抑制」などの見解を示したが、一部で想定されたほどハト派的な内容にはならなかった。豪ドル/円は直後に弱含むも、その後は買いが優勢となった。
4日	豪第1四半期GDPは前期比+1.1%、前年比+3.5%と予想(+0.9%、+3.2%)を上回る伸びとなった。これを好感して豪ドル/円は一時95.402円まで急騰した。
12日	豪5月雇用統計で、失業率は5.8%と予想通りであったものの、新規雇用者数が0.48万人減と予想(1.00万人増)に反して減少していた事から、豪ドル/円は95.326円まで急落。しかし、新規雇用者数の内訳でフルタイムが大幅に増加(パートタイムが大幅に減少)していた事から急速に買い戻された。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明や、連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の会見は、いずれも早期利上げ期待を高める内容ではなかった。これを受けてNYダウ平均が上昇すると、豪ドル/円は95.887円まで値を上げた。
23日	中国6月HSBCマークイット製造業PMI・速報値が50.8と予想(49.7)を上回ると、これを好感して豪ドル/円は一時96.290円まで上昇した。
24日	「ウクライナ東部で同軍のヘリコプターが反体制派の攻撃で墜落」「シリアの戦闘機がイラク西部を攻撃し、50人以上が死亡」との報道を嫌気して、NYダウ平均が下落。これを受けて豪ドル/円は軟調に推移し、引けにかけて95.507円まで下落した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	14777.51
HIGH	15442.67
LOW	14777.51
CLOSE	15162.10

NYダウ平均

OPEN	16716.85
HIGH	16978.02
LOW	16673.65
CLOSE	16826.60

上海総合指数

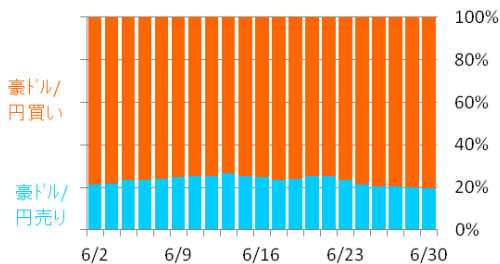
OPEN	2039.196
HIGH	2087.322
LOW	2010.530
CLOSE	2048.327

豪10年債利回

OPEN	3.6720%
HIGH	3.7185%
LOW	3.5200%
CLOSE	3.5375%

6月のポジション動向

豪ドル/円ポジション指数



今月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・RBAキャシュターゲット(1日)
- ・米6月雇用統計(3日)
- ・第2四半期中国GDP(16日)
- ・豪第2四半期消費者物価(23日)
- ・米FOMC(30日)
- ・ウクライナ情勢、イラク情勢
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

今月の見通し

7月については、豪州で第2四半期消費者物価に注目したい。豪準備銀行(RBA)はインフレターゲット(年2~3%)を採用しており、インフレ率の上昇・低下が政策金利変更の思惑に繋がりがやすく、市場の関心が集まりやすい。5月のRBA四半期金融政策報告では、今年のインフレ率について「目標範囲2-3%の中間」としており、もし3%に迫る結果となれば、RBAの利上げ開始の思惑に結びつきやすく、豪ドル買いの材料となろう。ただし、目標レンジの下限に接近するようだと、現在の中立的な政策スタンスが緩和的に変更されるのではとの思惑から豪ドルが売られる事も否定出来ない。結果に注目である。

豪国外では、ドルが動き出すかが焦点である。先月はドルの方向性がはっきりしなかった事から、豪ドル/米ドル相場は4月からのレンジ(概ね0.92ドル前後~0.94ドル半ば)を抜け出す事が出来なかった。このレンジをブレイク出来るかを見極める上で、米6月雇用統計で米連邦準備制度理事会(FRB)が懸念する「雇用の質」が改善されるか、米連邦公開市場委員会(FOMC)でどのような景気見通しを示すかに注目したい。その他、16日の中国第2四半期国内総生産(GDP)にも、市場の関心が集まりそうだ。(川畑)

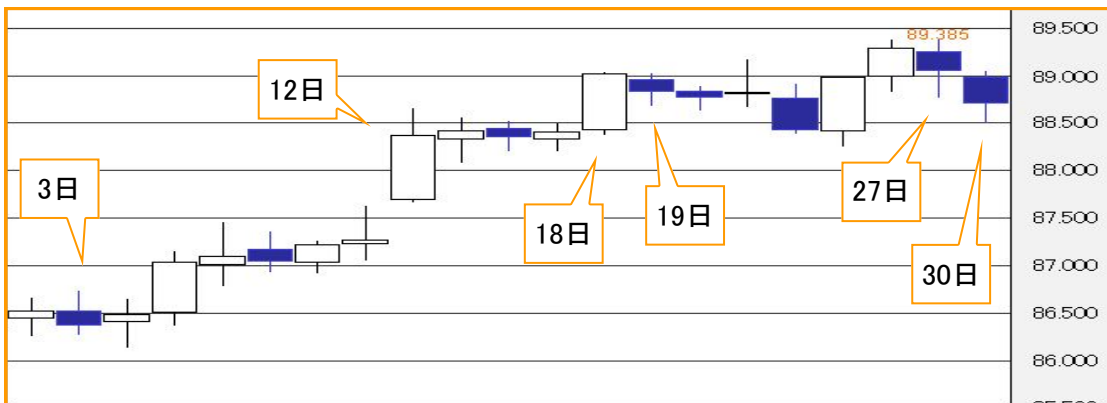
(予想レンジ: 92.700~98.200円)

NZドル/円 6月の推移

NZD/JPY

6月のNZドル/円相場は86.143～89.385円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.7%の上昇(NZドル高・円安)となった。

米5月雇用統計や米連邦公開市場委員会(FOMC)は、いずれも米ドルに方向感を与える結果とはならなかった。ただ主要国株価が上昇した事から、金利先高感があり、高格付けであるNZの通貨であるNZドル買いが強まり、対ドルや対円で堅調に推移。27日発表のNZ5月貿易収支の好結果が伝わると、NZドル/米ドルは2011年8月以来となる0.8794ドルの高値を記録し、NZドル/円は89.385円まで上昇した。



四本値

OPEN	86.449
HIGH	89.385
LOW	86.143
CLOSE	88.723

3日	NZ乳製品大手フォンテラの入札にて、乳製品価格が前回比4.2%低下し8回連続の下落となった。これを嫌気してNZドル/円は86.30円台まで急落した。
12日	NZ準備銀行(RBNZ)が政策金利を0.25%引き上げ、年3.25%とした。声明で「インフレ期待を引き続き抑制し、金利を中立水準にもう一段戻すことが重要」とした事を受けて追加利上げ期待が広がると、NZドルは上昇。NZドル/円は88.40円付近まで上値を伸ばした。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明や、連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の会見は、いずれも早期利上げ期待を高める内容ではなかった。これらを受けてNYダウ平均が上昇すると、NZドル/円は89.035円まで上伸した。
19日	NZ第1四半期国内総生産(GDP)は前年比が+3.8%と予想(+3.7%)を上回るも、前期比は+1.0%と予想(+1.1%)を下回った。直後の市場は前期比が予想を下回る伸びとなった事を受けてNZドル売りで反応し、NZドル/円はやや値を下げた。
27日	前日の米第1四半期GDP・確報値が予想以上に下方修正され、NZドル/米ドル相場ではNZドル買い・米ドル売りが優勢となった流れを引き継ぎスタート。NZ5月貿易収支が2.85億NZドルの黒字と予想(2.50億NZドルの黒字)を上回った事から、NZドル/円は4月以来となる89.385円まで上昇した。
30日	NZ5月住宅建設許可が前月比-4.6%と予想(-2.5%)より弱い結果となり、NZ6月ANZ企業景況感(ANZ)は42.8と前月(53.5)を大きく下回った。これらを受けてNZドル売りが優勢となり、NZドル/円は一時88.515円まで下落した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	14777.51
HIGH	15442.67
LOW	14777.51
CLOSE	15162.10

NYダウ平均

OPEN	16716.85
HIGH	16978.02
LOW	16673.65
CLOSE	16826.60

上海総合指数

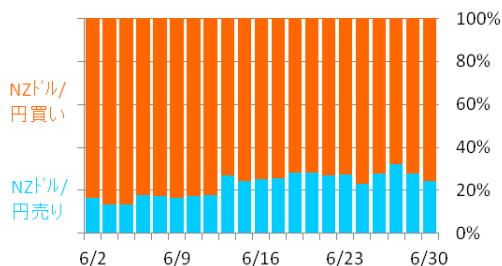
OPEN	2039.196
HIGH	2087.322
LOW	2010.530
CLOSE	2048.327

NZ10年債利回

OPEN	4.2168%
HIGH	4.4789%
LOW	4.2168%
CLOSE	4.3772%

6月のポジション動向

NZドル/円ポジション指数



今月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・米6月雇用統計(3日)
- ・第2四半期中国GDP(16日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(24日)
- ・米FOMC(30日)
- ・ウクライナ情勢、イラク情勢
- ・主要国株価
- ・NZドル/米ドル相場
- ・国際商品価格

今月の見通し

7月については、NZの金融政策発表(24日)に注目したい。先月のRBNZの金融政策発表の際に公表された声明で今後の利上げ継続を示唆した事から、市場では4回連続でNZ準備銀行(RBNZ)が利上げを実施するとの見方が根強い。仮に利上げが実施された場合、今年3月にRBNZが示した金利見通し(今年は合計で1.25%利上げする可能性)が上方修正されるかが焦点となろう。ただし、足元のNZドル/米ドルはRBNZ要人からのNZドル高牽制発言が相次いだ5月高値を上抜くと、6月27日に2011年8月以来となる0.8794ドルまで一段と上昇している。RBNZからのNZドル高牽制発言が出て不思議ではない水準に到達している事から、NZドル高を理由に今月は利上げを見送ることもあり得る。その場合、直後はNZドル売り優勢の展開が予想されるものの、RBNZの利上げスピードに変化がなければ一時的と予想される。

前述のNZドル/米ドルは0.88ドルの節目を突破すると、上値目処は2011年8月高値の0.8843ドルくらいしかなく、ここを超えると1981年5月以来の高値水準となる。もっとも、30年以上前の高値がレジスタンスとして機能するかは未知数であるため、その際は0.90ドルの大台を目指して上値を模索する事となるだろう。その場合はNZドル/円に上昇圧力が掛かる事が予想され、90円の大台突破を試す事も考えられる。(川畑)

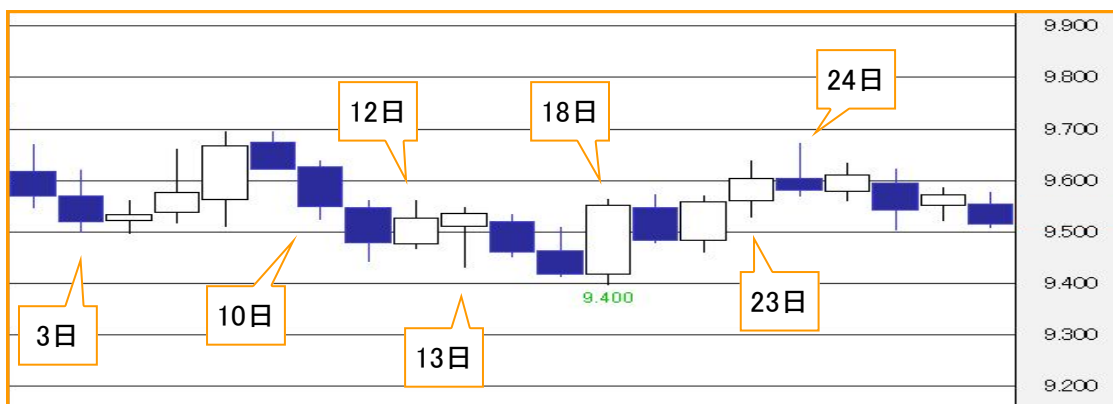
(予想レンジ: 85.600~92.200円)

ランド/円 6月の推移

ZAR/JPY

6月のランド/円相場は9.400～9.695円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.2%の下落(ドル高・ランド安)となった。

終値ベースで見ると小幅に下落したとはいえ、高安わずか30銭弱と今年最小の値幅を記録しており、小動きと捉えた方が実体に近いと言えるだろう。南アフリカ国内では、プラチナ鉱山のストが終結するも、金属労組がスト実施を予定しており、同国経済の懸念材料が払拭しきれなかった。また国外では、(1)米5月雇用統計や米連邦公開市場委員会(FOMC)がいずれもドルの方向感を打ち出す内容とはならなかった事から、ドル/ランド相場が概ね10.5-10.8ランド台のレンジを抜け出せなかった、(2)ウクライナ情勢やイラク情勢に対する不安があるも主要国株価が堅調に推移した、などの要因が重なった事が、ランド/円が小動きとなった背景にあるのではないかと見られる。



四本値

OPEN	9.619
HIGH	9.695
LOW	9.400
CLOSE	9.517

3日	南ア準備銀行(SARB)のミネレSARB副総裁は「南アフリカランドはより低い水準に調整されるだろう」と発言したが、ランド/円相場の反応は薄かった。
10日	SARBのマーカス総裁が「南アのCPI見通しに対するリスクが見られる」「2014年度の成長率が2013年度を超えることは困難」などと発言。これを受けてランド売りが優勢となり、ランド/円は9.50円台まで値を下げた。
12日	ストライキを主導していた鉱山労働者・建設組合(AMCU)が突如、スト終結に向けての労使交渉で基本合意が成立したと発表。今年1月から続いたストが終結するとの期待からランド買いが強まり、ランド/円は9.563円まで上昇した。
13日	欧州市場で、格付会社フィッチが南アの格付け見通しを従来の「安定的」から「ネガティブ」に引き下げた事を嫌気して下落。その後、9.432円の安値を付けた。NY市場に入り、格付会社S&Pが同国の格付けを「BBB」から「BBBマイナス」に1段階引き下げたが、材料出尽くし感からランドを買い戻す動きが優勢となった。
18日	南ア5月CPIが前年比+6.6%(予想:+6.5%)と2009年7月以来の高水準となった事や、第1四半期経常収支が1610億ランドの赤字と予想(2140億ランドの赤字)を上回った事を受け、ランド/円はやや上昇。米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明や、連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の会見は、いずれも早期利上げ期待を高める内容ではなかった。これを受けてNYダウ平均が上昇すると、ランド/円は9.564円まで一段高となった。
23日	南アAMCUのマチュンジャ代表が、長らく続いたプラチナ鉱山のストの正式な終結を宣言した事を受けてランド買いが強まり、ランド/円は9.638円まで上昇した。
24日	ミネレSARB副総裁が「物価上昇率が目標レンジの上限を突破しているにも関わらず、経済成長の見通しは著しく下振れしている」との見方を示したが、プラチナ鉱山のストが終結した事もあり、ランド/円はじり高で推移。NY市場で9.674円まで値を上げるも、「ウクライナ東部で同軍のヘリコプターが反体制派の攻撃で墜落」「シリアの戦闘機がイラク西部を攻撃し、50人以上が死亡」との報道を嫌気してNYダウ平均が下落すると反落した。

日経平均

OPEN	14777.51
HIGH	15442.67
LOW	14777.51
CLOSE	15162.10

NYダウ平均

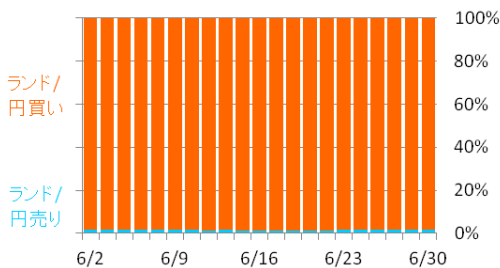
OPEN	16716.85
HIGH	16978.02
LOW	16673.65
CLOSE	16826.60

N Y 金

OPEN	1250.00
HIGH	1330.40
LOW	1240.50
CLOSE	1322.00

6月のポジション動向

ランド/円ポジション指数



今月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・米6月雇用統計(3日)
- ・第2四半期中国GDP(16日)
- ・SARB政策金利発表(17日)
- ・米FOMC(30日)
- ・南ア国内のストライキ
- ・ウクライナ情勢、イラク情勢
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

今月の見通し

7月については、引き続き南ア国内のストが焦点となろう。先月のプラチナ鉱山のスト終結後、29日に南ア金属労組が今月1日にストを実施することを明らかにしている。この中には南ア電力会社エスコムの従業員も含まれており、ストが長期化すると同国の電力不足が懸念され、プラチナ鉱山の稼働が先送りとなる恐れがある。この場合は南ア経済にさらなるダメージを与え、ランド売りの材料となる事が予想される。

また、今月の南アの金融政策発表について、市場では現状維持がコンセンサスとなっている。消費者物価は2カ月連続でSARBのインフレ目標(年3~6%)を突破するも、経済が停滞する中ではSARBがすぐに利上げに踏み切る可能性は低い。声明でSARBが今後の景気やインフレに対してどのような見通しを示すか注目したい。

南ア国外では、米6月雇用統計や米連邦公開市場委員会(FOMC)など米経済イベントを受けてドルが動き出すか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 9.000~9.900円)